

新しいぶどう酒は新しい革袋に（チャペルメッセージ⑤）

そして、イエスはたとえを話された。「だれも、新しい服から布切れを破り取って、古い服に継ぎを当てたりはしない。そんなことをすれば、新しい服も破れるし、新しい服から取った継ぎ切れも古いものには合わないだろう。また、だれも、新しいぶどう酒を古い革袋に入れたりはしない。そんなことをすれば、新しいぶどう酒は革袋を破って流れ出し、革袋もだめになる。新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れねばならない。」（新約聖書・ルカ福音書 5 章 36～38 節）

ここには、イエスが語った古いものと新しいものに関する二つの比喩が記されています。最初の継ぎ当てるの比喩では、新しい服から布切れを切り取って古い服に継ぎ当てるようなことをする人はおらず、そんなことをすれば新しい服は使いものにならなくなり、切り取られた布切れも古い服には合わず、どちらも無駄になってしまうと語られています。これに続くぶどう酒と革袋の比喩でも同様のことが語られており、新しいぶどう酒を古い皮袋に入れば、新しいぶどう酒は発酵して古い革袋を破って流れ出してしまい、やはりどちらともに無駄になってしまうというわけです。古いものと新しいものの不適合性について語るこれらの比喩を通して、イエスは、当時も根強く残っていた古いユダヤ世界の慣習と自らの新しい教えが相容れないことを語ろうとしたようですが、これを現代的に解釈するなら、新しい時代には新しい考えがふさわしく、古い考え方に固執すべきではないということになるのでしょうか。

もちろん、このような考え方に対しては、新しいものに目を向けることは確かに大切だが、古いものの中にも守るべきものがあるはずではないかという反論も出て来るかと思います。確かにその通りです。新しいものなら何でもいいということにはなりません。そして、このイエスの言葉にしても、古いものは何でも捨て去ればいいと言っているわけではありません。ここではむしろ、新しい生き方を始めようとするなら、古い生き方に一旦別れを告げて、新しく生まれ変わる必要があると語っているのです。

ここでアメリカの神学者、ラインホルト・ニーバーの祈りを紹介してみたいと思います。

神よ、変えることのできるものについて、それを変えただけの勇気をわれらに与えたまえ。
変えることのできないものについては、それを受け入れるだけの冷静さを与えたまえ。
そして、変えることのできるものと、変えることのできないものとを識別する知恵を与えたまえ。

この祈りは、第二次大戦中（1943 年）、ニーバーがある教会で説教した時に唱えた祈りですが、ここには、変えたいと思うことの中には変えられるものと変えられないものの二種類があり、どうしても変えられないもの（私たちの運命、もって生まれたもの等）については、それを受け入れる冷静さを、自分たちの行動によって変えられるものについては、そのように行動していく勇気を、そして両者をしっかりと見極めることができる目を与えてくださいと祈られています。

緊急事態宣言が出されて以降、「新しい生活様式」という表現をよく耳にするようになりましたが、様々な形で自粛が求められ、行動が制限されていく状況の中で、私たちも自分なりの新しい生活様式を模索していくことが求められているのかもしれませんが。その意味でも、いつまでも古い殻に閉じこもっているのではなく、変えるべきことで変えることのできるものをしっかりと見極め、新しい生き方を選び取っていかねばならないと思います。